第１８４回 長崎大学ＦＤ実施報告書（平成３１年３月２９日提出）

１．題　目： 合理的配慮についての理解を深める

２．日　時：平成 30 年 12 月 19 日（水） ～平成 31 年 3 月 22 日（金）

３．場　所： LACS 上にて実施

４．主　催： 教務委員会　企画・実施： 評価・FD 教育改善専門部会

５．対　象：全教職員

６．長崎大学ＦＤに関する申合せ第２第１項への該当について【複数選択可】
（該当するものに○を記入すること）
[　○　]（1）　教員の教育活動に関するもの
[　　]（2）　カリキュラムの改善に関するもの
[　　]（3）　教育の組織的改善に関するもの
[　　]（4）　入学者選抜方法の改善に関するもの
[　　]（5）　その他教育改善及び入学者選抜の改善に関するもの

７．今回のＦＤの趣旨・意義（６．に関連した形で記述すること）
本 FD は,『障害のある学生の修学支援に関する検討会報告（第二次まとめ)』の要点を踏まえ，合理的配慮の基礎的な考え方を学ぶとともに，授業内での活動を適切に進めるためのポイントを確認することを目的とする。本 FD は 2018 年 9 月 26 日に実施した同タイトルの FD を e-learning によって学習するものである。

８．プログラム構成［題目・担当講師］
題目：「合理的配慮についての理解を深める」
講師：ピーター・バーニック 助教（障がい学生支援室）

９．参加者：128 名
（内訳）

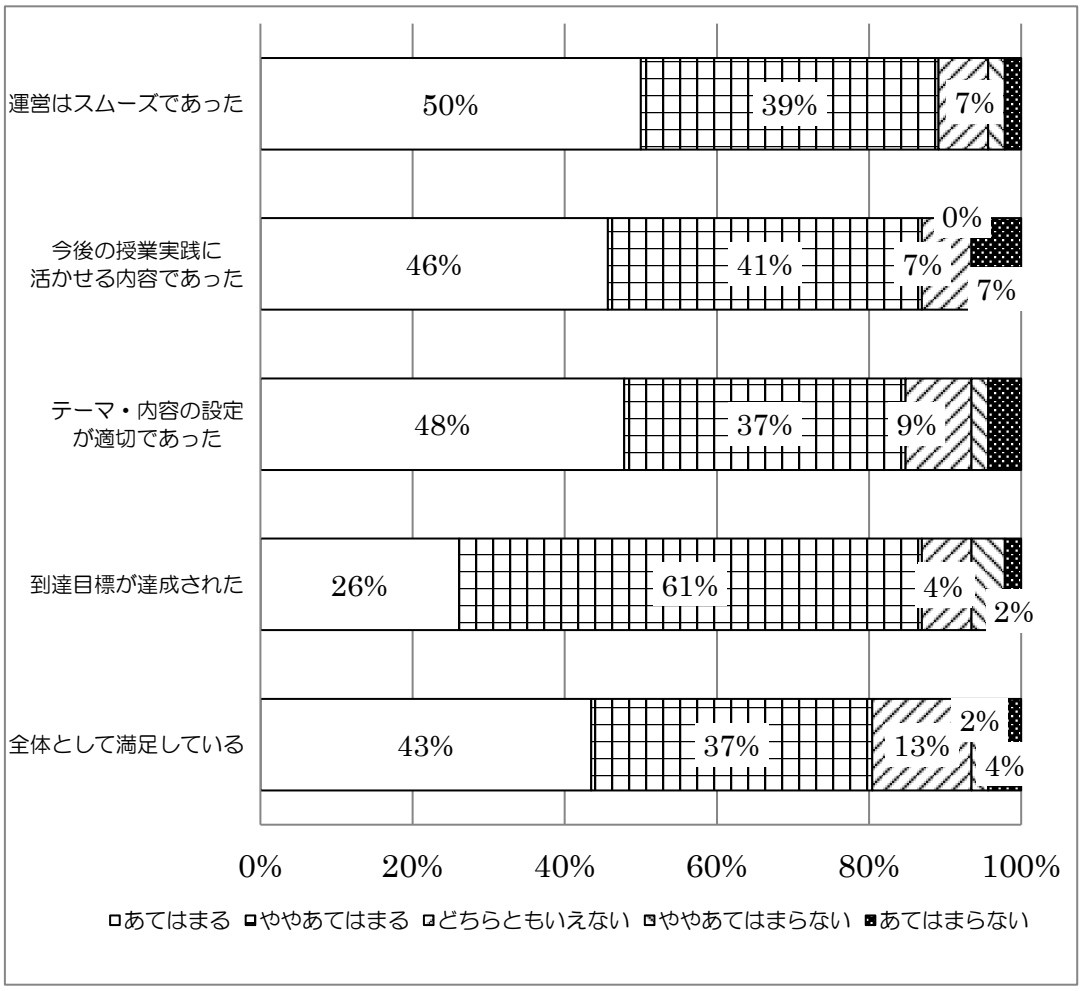
所　属	人数
工学研究科	1
医歯薬学総合研究科（医学系）	79

医歯薬学総合研究科（医学系）	1
医歯薬学総合研究科（歯学系）	5
原爆後障害医療研究所	10
先導生命科学研究支援センター	1
熱帯医学研究所	9
保健・医療推進センター	1
病院	21
計	128

※　別紙に参加者名簿を添付してください。

１０．実施したＦＤの成果等

（１） 参加者からの評価（アンケートの集計結果を記述する）



Ⅱ．今回のプログラムについて、お気づきの点・ご意見・ご感想をご記入下さい。

・動画の解説で資料を参考にするところがあったが、その資料がこの e-learning では示されていなかった。

・実際にどのような配慮の例があるかなど、実例があればわかりやすかったと思う。
・とても参考になります。
・わかりやすい内容でよかったです。
・色覚異常や聴覚異常などは想像しやすいが、もう少し具体的な事例(疾患名と症状の説明)があるとどのように配慮すべきなのか分かりやすかった。
・現場で配布された資料を閲覧可能にして欲しかった。
・プログラムは良いのですが、画面上の操作が少しわかりにくかったです
・健常者ばかりでなく障害のある学生が授業を選択することを想定して、多様な状態の学生を考慮した、多くの情報を載せたシラバス作りが重要であることを認識した。
・ビデオ動画のみならず、配布された資料のダウンロードができれば、より理解しやすいと思います。
・自身の講義を振り返る大切な機会となった。
・配布資料が手元にあると良かったと思います。
・今回は障害を持つ学生に対するシラバスの重要性を説く内容であったが、シラバスの重要性は、障害の有無にかかわらず重要であるので、今後とも、このような内容で教員を教育するプログラムを組むのは良いと思う。
・授業よりは臨床実習の現場でどうしていいか困ることが多いです。
・ヘッドホンで視聴を試みましたが、こもったような音声になり聞き取れず、仕方なく PC の音声をオンにして視聴しました。たまたま周囲に人がおらず事なきを得ましたが、原因がわかりません。
・分かりやすいご講義でした。
・学部によっては当てはまらないように感じた。
・本職は出張が多いので e-Leaning での受講は助かります。動画中のスライドの画素数がすくなく文字の判読が困難なものもあり改善できればお願いしたく思います。むろん、資料をダウンロードすればよいのですが、やはり講義の話の流れのなかで明瞭なスライドが見えたほうが良いです。
・内容がとても難しかったです。
・シラバス作成の段階で配慮を想起させることはとても重要と思います。医学科の臨床科目の場合、担当講義がオムニバス形式のことが多いので、シラバス作成者と講義担当者が別のことがあります。合理的配慮について、認知している教員も少ないかもしれません。講義当日になっての対応は困難と思いますので、当該学生についての情報共有の必要性を感じます。
・伝えたいことのポイントが不明瞭だと感じた。もっと具体的な目標を掲げ、その成果が評価できるものであるといいと思った。
・今まであまり意識しなかった部分なので大変参考になった。

・「合理的配慮についての理解を深める」というタイトルを見て、この講習を受けるまで、講義の内容がどのようなものかわかりませんでした。何に対しての合理的配慮なのか、サブタイトルとか、つけた方がよいのではないかと感じました。
・ほとんど考えていなかった講義であり、有意義であった。
・実際の事例を入れたほうが良い
・講義に慣れているわけではないので、色々な視点を教えていただけると助かります。
・ワークシートの内容が動画からはわからなかったため、シラバスの修正ポイントがよくわからなかった。
・「合理的配慮についての理解を深める」ということが、まだ煮詰め切れていない印象を受けました。
・海外で視聴していたので、動画をもうすこし軽くしていただけれるとたすかりました。

Ⅲ．長崎大学 FD としてとりあげるテーマ・内容についてご意見・ご要望をご記入下さい。

・スマホを活用した授業を具体的に例示してほしい。
・何でも多岐に渡って行って欲しい。これといった希望は特にありません。
・合理的配慮について、更にアップデートした内容を取り扱って欲しいです。
・メンタルヘルス関連（対応その他）
・医学教育におけるアクティブラーニングについて。より基礎的な教科の場合、どのようにすべきなのか知りたい。
・学生との適切な距離の取り方について
(近すぎてもよくないし、遠すぎても興味を持ってもらえないところが難しいなと思っています)
・倫理に関するテーマは必要であると考える。
・教員の負担が増えているので、負担を増やさないで、効率を良くする方法などの内容。
・思っていたより面白かったです。
・合理的配慮のケースレポート
・長崎大学の歴史について、お願いいたします。
・教養教育改革についての方針説明の機会があれば希望します。
・「学生からの評価」の評価～学生の視点が「楽が出来る」とか「合格しやすい」ものを安易に評価する場合がある。学生の評価を活かしつつも、それに振り回されないためにはどうすればいいのか？
・インターネットや SNS の学生教育への活用

・性同一性障害等の性別に困難を感じる学生の指導要綱
・これまでも取り上げたとこはあるかもしれませんが、AI の進化は日進月歩なので、AI に関したものを時々取り上げていただければと思います。
・現在の所、特にありません。
・アクティブラーニングの新たな手法
・学生の言う「座学ではない講義」とは一体どのようなものか、具体的な内容を知りたいです。
・学生の自発的な学習を促す方法を模索しているので、何か良い辞令があれば紹介してもらいたいです。
・英語教育について、英語力のない学生に対して。

（２） 総　括

本 FD は、9 月 26 日に開催された FD を e-learning で開催したものであり、授業の計画段階、特にシラバスの作成時における合理的配慮についての理解を深めることを目的に行われた。合理的配慮に関する基本的な考え方に続き、シラバスに授業の内容や方法等を明記することは障害のある学生にとって授業選択の指標となるだけでなく、配慮や支援を必要とするかどうかを検討する上で重要な情報となることが説明された。後半の演習では、複数の実存のシラバスを使用して、それぞれ異なる特質の障害を持った学生が受講することを想定し、学生、教員それぞれの視点から、どのような困難が予想されるかを抽出し、これらの困難に対してどのような情報をシラバスに記載しておくことが重要かを検討した。受講者のアンケートでの満足度が高いことからも窺えるように、合理的配慮におけるシラバスの重要性が理解できた有意義な FD であった。また、9 月 26 日に開催した際の参加者数は 17 名であるのに対し、今回の e-learning では 127 名の受講があり、当日に参加できなかった方が多数受講されたと考えられるため、e-learning 型の FD は有効であったと言える。
ただし、e-learning 型 FD において、「当日の配布資料の提示の問題」「動画スライドの解像度の問題」など講義内容以外の課題もあり、今後、同様な企画を実施する際の参考にしていきたいと考える。

（文責：成瀬尚志）

１１．実施代表者の連絡先

教務委員会委員長 塚元 和弘
e-mail：ktsuka@nagasaki-u.ac.jp 電 話：内線 2003

１２．申請者の連絡先

学生支援部教育支援課教養教育班

主査 寺川 美穂
e-mail：fd@ml.nagasaki-u.ac.jp
電 話：内線 2077